

海外派遣プログラム参加のみなさんへ

海外渡航における注意喚起とお願い



海外渡航中に、トラブルや危機に遭遇してしまった場合、言語や文化などの違いからその解決方法の多くは国内でのそれとは異なります。トラブルの多くは事前の準備を行うことで防ぐことができます。海外での研修へ参加する皆さんには安全対策の「意識」と「知識」を渡航前に十分に身につけるとともに、必要な手続きの準備をお願いします。また、各自にて渡航前の準備を入念に行い、渡航先では危機管理意識をもって行動してください。

酪農学園大学では皆さんが下記の案内をよく読み、安全で実りある研修が行われる事を期待します。

□(重要)海外旅行保険への加入と報告

本学では、危機管理会社との契約を結び、緊急事故対策の専門家からのアドバイスに基づき、対策を講じることとしております。

実際の緊急対策オペレーションに要する経費は、参加者が加入する海外旅行保険でカバーすることを前提としており、海外派遣プログラムに参加する学生の皆さんが渡航中の不慮の事故や疾病に備えるために十分な補償額を備えた海外旅行保険の加入を義務付けています。

=危機管理対策事前準備の流れ=

⇒海外旅行保険については裏面参照



□(重要)トラブル発生・病気になったら

トラブルの発生や病気になってしまったら下記の手順で連絡を行ってください。また、速やかに連絡が行えるよう連絡網を作成してください。

- ①速やかに引率教員、もしくはプログラム担当者へ連絡
- ②保険会社へ連絡し、トラブルへの対処や治療・救援を依頼
- ③現地の警察・医療機関の指示に従う

※保険会社や大使館、警察、医療機関等の指示や対応内容は、トラブルが最終的に解決されるまで、逐次引率教員または酪農学園大学に報告するようにしましょう。

～渡航前準備～

□ 渡航先国/地域について調べましょう

右表の主な渡航先における犯罪認知件数の比較を見ると、日本と比べた時の諸外国の治安状況がわかります。外務省の「海外安全ホームページ」(<http://www.anzen.mofa.go.jp/>)には国別の犯罪・事件・テロなどの危険情報や、感染症流行状況・予防接種の要否などが掲載されています。また各国の「日本大使館のページ」には、より詳しく滞在先国の注意について掲載されています。必ず上記へアクセスし、それぞれの渡航先で特に気をつけるべきことは何か、十分に把握してください。

<犯罪認知件数の主要国比較>

	犯罪率	殺人 /10万人	強姦 /10万人	強盗 /10万人	麻薬 /10万人
日本	1.60	0.44	1.52	3.99	16.81
シンガポール	1.20	0.92	3.04	11.52	105.08
タイ	2.22	0.79	8.37	112.30	174.81
中国	1.28	1.22	2.84	24.59	—
アメリカ	8.49	5.62	30.53	147.74	624.03
イギリス	10.39	1.72	27.04	183.83	334.11
アイルランド	2.44	1.59	10.09	56.38	86.04
カナダ	8.31	1.86	68.28	94.40	112.50

国連統計(2006年):犯罪傾向および刑事司法制度より

□ 渡航計画について

- 時間に余裕をもったスケジュールを。
- 深夜発着の航空便や現地でのバスや列車による深夜移動は控えてください。
- 移動の際は白タク、見知らぬ人の車などを利用してはいけません。
- 滞在先は渡航先地域のうちでも治安のよい地域を選び、セキュリティのしっかりしたホテル等へ滞在してください。
- 渡航先によっては乾季・雨季などで天候も大きく変わります。情報収集と準備を行ってください。
- 緊急時に速やかに連絡ができるよう引率教員や留守宅、保険会社などの連絡先をひかえておいてください。



□ 荷物について

- パスポートやビザ(査証)など不備がないかよく確認してください。
有効期限は十分に残っていますか？ビザ電子認証等が必要な渡航先ですか？
- 航空券またはEチケット控え→日付・時間を確認
- お金→外貨(現金)、クレジットカード、トラベラーズチェック、プリペイド式カードなど
現地に必要な費用は、紛失や盗難の可能性に備えて、現金やカードなど複数の形態に分けて持参しましょう
トラベラーズチェックやカード類は、番号やトラブルが生じた際の緊急連絡先を手帳などに控えておきましょう
- 海外旅行保険証券・ハンドブック
保険会社に連絡する際、証券番号を伝えるとより迅速な対応ができます。
- 胃腸薬や風邪薬など飲みなれた薬や絆創膏など救急セット
常備薬・病院から処方されている薬など
★慢性的な持病があり病院から薬を処方されている場合は渡航日数分を忘れずに持参しましょう。
★処方されている薬に関して病院に英文の処方箋を出してもらい、薬と一緒に持参するとより安心です。
★薬によっては国内に持ち込みが禁止されているものもあります。病院等に問い合わせてください。
- その他海外で有用と思われるものは各自用意してください。
(例: 海外で使える携帯電話、トラベルマネーカード、虫よけスプレーなど)



～滞在中の注意～

□ 安全対策:常に用心を怠らない

- 人通りの少ない場所、夜間の一人歩きは避ける。
- 人混みの中では荷物から目を離さない。荷物の口は常に閉める。
- 歴史・人種・宗教などの話題について、軽率な発言は避ける。
- フォーマルな場所以外では目立つ服装、華美な服装を避ける。
- パスポートは常に携帯し、コピーや顔写真の用意を。
- 最寄りの日本大使館・領事館の場所を確認しておく。
- 滞在先文化を尊重し、法律や宗教的習慣、伝統、行動規範に従う。
- 滞在先での電話の使い方を確認しておく。
- 滞在先では部屋の中でも貴重品・現金などを出しっぱなしにしない。
- 見知らぬ人からモノなどを預からない。

□ 健康管理:予防と対策

体調管理

- ・バランスの良い食事をとるよう心がけること
- ・適度に体を動かすこと
- ・十分な睡眠・休養をとること
- ・うがい、手洗いを慣行のこと
- ・食中毒・感染性胃腸炎・コレラ・赤痢など...
飲食物から感染。とくに熱帯・亜熱帯地域、衛生環境の不十分な地域では注意。予防→生ものや加熱されていないもの、調理してから時間が経ったと思われるもの、生水、氷を口にしないこと
- ・マラリア
蚊を媒介として感染。熱帯から亜熱帯にかけて広く分布する感染症で、症状は主に高熱。予防→防虫(虫除けスプレー、皮膚を露出しないなど)
- ・ウエストナイル熱
蚊を媒介して感染。アフリカを始めとして世界中に広く分布している。感染しても約8割は無症状だが、発症すると頭痛や発熱などが生じる。
予防→防虫(虫除けスプレー、皮膚を露出しないなど)
- ・狂犬病
動物(主に犬)に噛まれることで感染する。南極をのぞくすべての大陸で感染が確認。発症後の死亡率はほぼ100%で、確立した治療法はない。予防→狂犬病が発生している国ではむやみに動物に近寄らない、触れないこと。動物にかまれた場合はすぐに石鹸で手を洗い、消毒した上で病院へ。

～海外旅行保険加入について～

海外の病院での治療などの医療行為は、日本とは医療事情が異なり、一般的に日本での治療費用より高額な場合が多く、海外旅行保険による支払保証を行わないと治療を受けられないこともあります。そのため、海外旅行保険に加入の際は保険項目の一般的名称「治療・救援費用」が3,000万円以上の保険に加入することを旨とします。なお「治療・救援費用」は主に傷害や疾病の場合の治療や移送、保護者の救援費用などに充てられます。(※詳細は加入保険代理店、保険会社へ問い合わせをしてください)

海外旅行保険は研修グループごとに可能な限り一つの保険会社に加入することをお願いします。これは皆さんが万一の事態に遭遇した際に研修の参加者全員が、平等な救援活動を受け、事故対応をスムーズに行うためです。研修先において、地震や津波などの天災やアクティビティ等で事故に見舞われた場合、救援活動は保険会社毎に行われます。したがって、保険会社が異なると、救援活動に個人差が生じてしまいます。そうしたことを避け、本学からの皆さんへの支援を迅速に行うため、皆さんが同じ保険会社を選択することをお願いしています。

※クレジットカード付帯海外旅行保険

多くのクレジットカード付帯の海外旅行保険では十分な治療費用を賄う保険金額が設定されておらず、また、付帯海外旅行保険が有効になるための利用条件(旅行代金をカードで払うこと、1年以内に一定額以上のカード決済履歴があることなど)が設定されている場合があります。また、治療や救援が必要な場合では自身で救急や病院を手配しなければならず、立替払いであること、緊急時には保険適用の確認に時間を要し、迅速な治療や救援が行えない場合があります。上記の理由から、一般的なセットプラン海外旅行保険に加入してください。

-本件に関する問い合わせ先-
酪農学園大学エクステンションセンター国際交流課
Tel 011-388-4132



(監修) 特定非営利活動法人
海外留学生安全対策協議会

(Japanese Council for the Safety of Overseas Students)